

日本における書誌 コントロールの動向 —目録規則を中心に

渡邊 隆弘
(帝塚山学院大学)

watanabe@tezuka-gu.ac.jp

目次


1. 日本における書誌コントロールの現状
目録作成と目録規則
2. 新しい「日本目録規則」の策定
FRBR, RDAに対応した新規則
3. 日本における書誌フレームワーク
MARC? BIBFRAME?
4. 日本における書誌コントロールとLOD
書誌データ、典拠データをオープンに
5. おわりに

☆日本における書誌コントロールの現状

- ◇ 国立国会図書館(NDL: National Diet Library)
全国書誌の提供、JAPAN/MARCの提供
- ◇ 公共図書館(Public library)
「民間MARC」データの購入による各館の目録構築
- ◇ 大学図書館(Academic library)
書誌ユーティリティ NACSIS-CATによる
共同分担目録

☆日本の「全国書誌」

- ◇ NDL-OPAC等を通じて書誌データを提供
各種図書館での無償利用可能



長年の問題：作成の遅さ(タイムラグ)
改善の努力はされているが...
CIP(Cataloging In Publication)の制度なし
公共図書館等で使えるレベルは難しい

全国書誌データ提供—全国書誌データの利用を考えている図書館のみさまへ

☆公共図書館、大学図書館の目録作成

- ◇ 公共図書館：「民間MARC」
TRC(図書館流通センター)など数社が提供
目録規則を超えるデータも
内容紹介、内容細目、著者紹介など
集中目録作業による効率化
- ◇ 大学図書館：書誌ユーティリティ「NACSIS-CAT」
国立情報学研究所が運営(官営)
総合目録の形成 →各大学のシステムにダウンロード
共同分担目録作業による効率化

国立、公共、大学の各枠内では合理化が進んでいるが...
三者ばらばらなのが、大きな問題

☆日本における目録規則の運用

- ◇ 国立国会図書館
和(日本)資料は日本目録規則(NCR)
洋(西洋)資料はAACR2 → RDA(2013~)
- ◇ 公共図書館
基本的に、NCR
- ◇ 大学図書館(NACSIS-CAT)
和資料はNCR
洋資料はAACR2
(まだRDAに移行せず)

☆日本目録規則

Nippon Cataloging Rules (NCR)

最新版：1987年版改訂3版(2006)
日本図書館協会(JLA) 445ページ

序説、総則(0章)

第I部 記述 (Description)
全13章+附則 約300ページ

第II部 標目 (Headings)
全6章+附則 約40ページ

第III部 排列 (Filing)
全5章 約10ページ

付録、索引

☆日本目録規則 1987年版改訂3版(2006)

第I部 記述 (Description)

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| 1章 記述総則 | (General Rules) |
| 2章 図書 | (Monographs) |
| 3章 書写資料 | (Manuscript) |
| 4章 地図資料 | (Cartographic materials) |
| 5章 楽譜 | (Notated music) |
| 6章 録音資料 | (Sound recording) |
| 7章 映像資料 | (Motion pictures and videorecordings) |
| 8章 静止画資料 | (Graphic materials) |
| 9章 電子資料 | (Electronic resources) |
| 10章 博物資料 | (Three dimensional materials) |
| 11章 点字資料 | (Tactile materials) |
| 12章 マイクロ資料 | (Microforms) |
| 13章 継続資料 | (Continuing resources) |

☆日本目録規則 1987年版改訂3版(2006)

第II部 標目 (Headings) 付録 (Appendix)

- | | |
|------------|-----------------------|
| 21章 標目総則 | 1. 句読法、記号法 |
| 22章 タイトル標目 | 2. 略語表 |
| 23章 著者標目 | 3. 国名標目表 |
| 24章 件名標目 | 4. 無著者名古典・
聖典統一標目表 |
| 25章 分類標目 | |
| 26章 統一タイトル | 5. カード記入例 |

第III部 排列 (Filing) 6. 用語解説

- 31章 排列総則
32章 タイトル目録
33章 著者目録
34章 件名目録
35章 分類目録

☆日本における標準目録規則の歴史

- | | | |
|------|---------------------------------|---------|
| 1893 | 『和漢図書目録編纂規則』
日本文庫協会(現JLA)による | |
| ... | | |
| 1943 | 『日本目録規則』(1942年版)
青年図書館員連盟による | NCR1942 |
| 1952 | 『日本目録規則1952年版』
以後、日本図書館協会による | NCR1952 |
| 1965 | 『日本目録規則1965年版』 | NCR1965 |
| 1977 | 『日本目録規則新版予備版』 | NCR1977 |
| 1987 | 『日本目録規則1987年版』 | NCR1987 |

☆日本目録規則(NCR)の特徴

- ◇記述独立方式(等価標目方式)
(Description independent; Alternative heading)
NCR1977以降、記述独立方式
(NCR1965は、著者基本記入方式)

基本記入標目は定めず、標目はすべて等価
NACSIS-CAT等でAACR2を採用する場合も
基本記入方式はとらず

- ◇その他の特徴(NCR1987)
基本的にISBD準拠、多様な資料種別に対応、
洋資料にも対応、「書誌階層」の考え方を導入

☀目次

1. 日本における書誌コントロールの現状
目録作成と目録規則

2. 新しい「日本目録規則」の策定
FRBR, RDAに対応した新規規則

3. 日本における書誌フレームワーク
MARC? BIBFRAME?

4. 日本における書誌コントロールとLOD
書誌データ、典拠データをオープンに

5. おわりに

☆「新NCR」の策定

- ◇ 2010～ 日本図書館協会目録委員会
Committee on Cataloging of JLA
- ◇ 2013～ 十国立国会図書館収集書誌部
Acquisition and Bibliography Department, NDL



☆日本におけるFRBR, ICP, RDAの受容

- ◇ FRBRモデル (FRBR, FRAD, FRISAD)
発表直後から紹介する論考など、一定の注目
日本語訳(2004)
概念モデルの検討や日本の目録のFRBR化に関する研究も
- ◇ 国際目録原則 (ICP)
IME ICC4 (2006, ソウル) 等の策定プロセスに参加
日本語訳(2009)
- ◇ RDA (Resource Description and Access)
策定段階から、そのプロセスを追う論考など、一定の注目
刊行後、紹介書籍や講習会・ワークショップなど
NDLで内部使用のための翻訳作業
適用例は、NDLの洋資料にとどまる(2015現在)

参考: 情報組織化研究グループのサイトに掲載の「情報組織化関連記事一覧 2000-2009」「同2010-」の「目録法」の項 <http://josoken.digick.jp/>

☆RDAの紹介書籍(いずれも2014刊行)



☆新NCRの策定経過

- ◇ 2006 「1987年版改訂3版」
「1987年版の最後の改訂」(目録委員会報告)
以後、抜本改訂をにらんでRDA調査等
- ◇ 2010.9 改訂方針を表明(JLA目録委員会)
これからの目録は「資料のもつ潜在的利用可能性を最大限に顕在化する道具であるべき」
- ◇ 2013～ JLAとNDL収集書誌部との連携作業
NDLでは「書誌データ作成・提供の新展開」(2013)の一環
スケジュールの明確化「2017年度に新規則公開」
- ◇ 2014, 2015 部分的に条文案公開
NDL「書誌調整連絡会議」資料として

☆新NCR策定の基本姿勢

- ◇ 国際標準(ICP等)に準拠
=FRBRを基盤とする規則
- ◇ RDAへの対応を重視
エレメントの設定は、基本的に対応
- ◇ 日本における出版状況、目録慣行に配慮
あえてRDAと異なる本則とする箇所も
- ◇ 論理的でわかりやすく、実務面で使いやすく
あえてRDAと異なる構成をとる箇所も
- ◇ 名称、刊行形態は現時点では未定
「日本目録規則」の名称は残す?

☆新NCRの特徴(1)

- ◇ (RDAと同様に)FRBRモデルを基盤に
典拠コントロールの位置付けの明確化
著作の典拠コントロールの徹底
資料の物理的側面と内容的側面の整理
関連の記録の重視
- ◇ RDAにできる限り対応
資料種別ごとの章立ては取らず
エレメントの増強
語彙のリスト(関連指示子を含む)
構文的側面(encoding)は規則に含まず
- ◇ 機械可読性の向上

☆ 新NCRの特徴(2)

◇NCR独自の規定など

- ◇アクセス・ポイントの「読み」の規定
- ◇NCR1987の「書誌階層構造」の考え方は維持
- ◇NCR1987とRDAで異っている規定の扱い
RDAに優位性 or 優劣つけがたい
→ RDAを採用
NCR1987の規定は、必要に応じて「別法」に
日本の出版慣行、目録慣行を勘案するとNCRに優位性
→ NCR1987を採用し、RDAの規定を「別法」に

◇「総説」「属性」「関連」の3部構成 お手元の資料

属性の部:「属性の記録」「アクセス・ポイントの構築」

☆ 新NCR運用にあたっての、最大の問題(私見)

◇著作の典拠コントロールの徹底

NCR1987の「統一タイトル」は極めて限定的
記述独立(等価標目)方式の規則



著作の典拠形アクセス・ポイント(AAP)
= 作成者のAAP+優先タイトル

野坂, 昭如, 1930-. 火垂るの墓

園部, 三郎, 1906-1980; 山住, 正己, 1931-2003. 日本の子どもの歌

*新NCR案では、作成者全員の列挙を本則としている。

著作の態様により、何を作成者とみなすか?
かつての「基本記入標目選定」に通じる作業

☆ 新NCR完成に向けたスケジュール

◇2016年3月

NDL「書誌調整連絡会議」で条文案の部分公開
* 2章(体現形の属性)の主要部分

◇FY2016(平成28年度)

新規則案(全体案)の公開(JLA・NDL)
国内で共通に適用できるよう関係機関と調整(JLA・NDL)
新規則案に対する検討集会を開催(JLA・NDL)
新規則案を適用した試行データ作成・評価(関係機関・NDL)

◇FY2017(平成29年度)

新規則案の適宜修正(目録委員会・NDL)
新規則の公開(JLA・NDL)
書誌データ作成機関向けの実務研修の実施(JLA・NDL)

☀ 目次

1. 日本における書誌コントロールの現状
目録作成と目録規則

2. 新しい「日本目録規則」の策定
FRBR, RDAに対応した新規則

3. 日本における書誌フレームワーク
MARC? BIBFRAME?

4. 日本における書誌コントロールとLOD
書誌データ、典拠データをオープンに

5. おわりに

☆ 日本における書誌フレームワーク

◇国立国会図書館(NDL)

UNIMARC準拠のJAPAN/MARCフォーマット(1981~)
2012よりJAPAN/MARC MARC21フォーマット

◇公共図書館

民間MARCは、旧JAPAN/MARCに近いフォーマット

◇大学図書館

NACSIS-CATは「CATPフォーマット」
(独自のマークアップ形式)

「三者ばらばらなのが、大きな問題」と申し上げたが、
実は「書誌フレームワーク」もそれぞれ...

☆ 日本における書誌フレームワークの今後

◇BIBFRAMEは?

紹介や問題点指摘の論考が数点ある程度の状態

◇新NCRの運用に向けて

構文的側面を扱わない規則
フレームワークを定めないと、はじまらない

◇NDL? 「国立国会図書館の書誌データ作成・提供の新展開(2013)」

「資料と電子資料の書誌データを一元的に扱える書誌フレームワークを構築する。」

◇大学図書館(NACSIS-CAT)?

2020年にシステムの大規模見直しを想定

目次

1. 日本における書誌コントロールの現状
目録作成と目録規則
2. 新しい「日本目録規則」の策定
FRBR, RDAに対応した新規則
3. 日本における書誌フレームワーク
MARC? BIBFRAME?
4. 日本における書誌コントロールとLOD
書誌データ、典拠データをオープンに
5. おわりに

日本の図書館界とLOD

- ◇ 2010年前後から注目
- ◇ 国立国会図書館(NDL)の積極性
「利用者が書誌データを多様な方法で容易に入手し活用できるよう、開放性を高める。」(2013「新展開」)
その前の方針(2008)でも、「開放性」がキーワード
2014年にポータルページを開設
「使う・つなげる: 国立国会図書館のLinked Open Data (LOD) とは」
<http://ndl.go.jp/aboutus/standards/lod.html>
書誌データ、典拠データ、震災関連データを提供

国立国会図書館のLOD

- ◇ 書誌データ: NDLサーチ(NDL Search)
API提供(SRU, SRW, OpenSearchほか)とデータセット提供
NDL所蔵資料だけでなく、広範な外部DBやアーカイブも対象

外部提供インタフェース(API)

外部提供インタフェース(API) | 提供機能の詳細 | APIのご利用について

1. 国立国会図書館サーチで提供するAPI
国立国会図書館サーチでは、検索用APIとハーベスト用APIの2種類のAPIを提供しています。
 - 検索用API
 - 国立国会図書館サーチの検索ができます。(検索対象範囲は、使用するAPIのプロトコルによって異なります。)
 - SRU, SRW, OpenSearch, OpenURL, Z39.50に対応しています。
 - ハーベスト用API

国立国会図書館のLOD

- ◇ 典拠データ: Web NDL Authorities
名称典拠および主題(件名)典拠データを提供
SPARQLによるAPI提供と一括ダウンロード提供
VIAF等とも連携

Web NDL Authorities
国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス

SPARQLについて

1. SPARQLによる検索
例1: ある人名の生没年、標目形、標目形カナヨミを調べる | 例2: 没年から典拠URI、名称実体URI、標目形、標目形カナヨミを調べる | 例3: ある件名標目の上位語、下位語などを調べる | 例4: ある年代分類に属する件名標目を調べる

このページでは、SPARQLによる検索方法について説明します。GUI上での検索方法については「ヘルプ」の該当箇所をご覧ください。

1. SPARQLによる検索
当システムは、RDF形式で典拠データをデータベースに格納しており、RDFで記述されたデータ一列を検索・操作するためのコンピュータ言語であるSPARQLを用いて外部から検索することができます。SPARQLによるクエリは、RDFのモデルのうち、未知の部分を実数(半角クエスチオンマーク(?)で始まる名前)として実数を含むRDFクワッドを記述し、実数にあてはまるURIやリテラル値を取得する、という形式となります。

国立国会図書館のLOD

- ◇ 震災関連データ: ひなぎく
東日本大震災の関連情報を多くのデータベースから検索
API提供(SRU, OpenSearch, OAI-PMH)

外部提供インタフェース(API)

外部提供インタフェース(API)

国立国会図書館東日本大震災アーカイブでは、アーカイブ間の機械的な連携を進めるため、SRU、OpenSearch、OAI-PMHの3つのAPIを用意しました。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ内に保存されたコンテンツに対するメタデータと、各連携データベースからメタデータの再配布の許諾を頂けたメタデータについて、国立国会図書館東日本大震災アーカイブメタデータスキーマの形式のメタデータが、検索・収集可能です。

日本の図書館界とLOD

- ◇ 国立情報学研究所(NII): CiNii
CiNii Articles (国内発行論文情報)
CiNii Books (NACSIS-CATによる大学図書館総合目録)
CiNii Dissertations (国内の学位論文情報)
API提供(OpenURL, OpenSearch, RDF, JSON-LD)

CiNii 日本国内の学術的・学芸的資料の提供

CiNii 全般 - メタデータ・API

目次

- 概要
- OpenURL
- OpenSearch
 - A. フォウワの検索UIからCiNiiを検索する
 - B. RSS, Atom/XMLで取得する
 - C. OpenSearchのクエリをCiNiiのクエリに変換する
- RDF
 - RDFの取得方法
 - RDFフォーマットの詳細
 - JSON-LD(ベータ版)
 - JSON-LDの取得方法
 - JSON-LDフォーマットの詳細
- CiNii Books APIを表示した総合目録データベースのデータ公開について

☆ 日本の図書館界とLOD

- ◇ NDL、NIIによる大規模提供
両機関以外の作成データも、かなり取り込まれている
NDLサーチ、ひなぎく、CiNiiを通じてLOD提供
- ◇ 個別機関での今後の対応は？
- ◇ 目録規則側での対応？
エレメントや語彙のLOD化
(新NCRでは、検討はまだこれから)

☀ 目次

1. 日本における書誌コントロールの現状
目録作成と目録規則
2. 新しい「日本目録規則」の策定
FRBR, RDAに対応した新規則
3. 日本における書誌フレームワーク
MARC? BIBFRAME?
4. 日本における書誌コントロールとLOD
書誌データ、典拠データをオープンに
5. おわりに

☆ まとめ

- ◇ 目録規則
2017年度(2018年春まで)に、RDA対応の新規則
- ◇ 書誌フレームワーク
今後の見通し不明
新しい規則を、どんな「器」におさめるのか？
- ◇ LOD
NDLを中心に、一定の進展

●新 NCR の構成案（2015.12 現在）

目録委員会報告
序説

章名の[]は、当面作成を保留している章
(RDA で未刊となっている部分に、ほぼ相当)

第1部 総説
0章 総説

第2部 属性

<属性の記録>

セクション1 属性総則

1章 属性総則

セクション2 著作、表現形、体现形、個別資料

2~5章 実体別（体现形、個別資料、著作、表現形）

セクション3 個人、家族、団体

6~8章 実体別（個人、家族、団体）

セクション4 概念、物、出来事、場所

9~12章 実体別（[概念]、[物]、[出来事]、[場所]）

<アクセス・ポイントの構築>

セクション5 アクセス・ポイント

21章 アクセス・ポイントの構築総則

22章~32章 実体別（著作、表現形、[体现形]、[個別資料]、個人、家族、団体、
[概念]、[物]、[出来事]、[場所]）

RDA では、セクション1 を体现形・個別資料、セクション2 を著作・表現形とし、それぞれに「一般指針」と複数章を置くが、新 NCR では1 実体1 章とし、「属性総則」を先頭に置く

RDA では、著作・個人等の章で属性とアクセス・ポイントの両方を扱うが、新 NCR ではアクセス・ポイントの構築は独立した章とし、セクション5 にまとめる。RDA がない「アクセス・ポイントの構築総則」も置く。

第3部 関連

セクション6 関連総則

41章 関連総則

セクション7 著作、表現形、体现形、個別資料の関連

42章 資料に関する主要な関連

43章 資料に関するその他の関連

44章 資料と個人・家族・団体との関連

45章 [資料と主題との関連]

セクション8 その他の関連

46章 個人・家族・団体間の関連

47章 [主題間の関連]

RDA では、関連に6 セクション21 章をあてるが、新 NCR では構成を簡素化し、章の順序も一部変更する。RDA がない「関連総則」も置く。

付録（含：用語集）